

質問者氏名	質問事項	質問要旨
<p>8番 稲葉親太郎</p>	<p>1. インバウンド観光施策の推進について</p>	<p>日本政府観光局によりますと、昨年の訪日客数は2,403万9千人で前年比21.8%増と、訪日客数は増加の一途を辿っており、政府は昨年3月に「明日の日本を支える観光ビジョン-世界が訪れたくなる日本へ」を策定し、訪日客数を2020年に4千万人、2030年に6千万人とするという新たな目標を掲げました。</p> <p>当町におきましても、平成27年の観光客数は、大涌谷における火山活動の活発化の影響により、1,737万6千人と、前年比で18%減少するなど、大変厳しい状況となりましたが、このうち外国人観光客につきましては、宿泊客数は38万人、来訪者数は推計値ながらも町が目標と掲げていた100万人を突破するなど、国の動向と同じく大幅な増となったものであります。そこで、インバウンド観光施策の推進について、次の3点をお伺いいたします。</p> <p>① 観光産業は、本町の経済の礎ではありますが、インバウンド観光が当町への経済の占める割合は、現状ではどのようになっているのか。</p> <p>② 特に施政方針において「ジャパントائمライン」を使用して、東アジア、東南アジアに対して広く観光情報を発信するとありますが、その手法と効果について</p>

	<p>2. 防災減災対策について</p>	<p>③ 国は訪日客数を2020年に4千万人、2030年に6千万にするという新たな目標を掲げております。また、県においてはIR法案に関して興味を示しているとも聞いています。そこで、国や県に対して観光客を含む人の流れを箱根に向けるための協力に係るアプローチについて</p> <p>東日本大震災からもうすぐ6年を迎える日本にあって、毎年のように各地で大規模な自然災害が発生し、甚大な被害を被っておりますが、当町においても大涌谷周辺の火山事象により、地震を始めガス噴出は自然の驚異であり、温泉という資源の裏腹に自然の恐ろしさを実感し日々を過ごしておりますが、大涌谷園地は、昨年一部を除く開放されることになり、大涌谷園地が開放された日の強羅駅、早雲山駅は内外からの観光客で溢れており、感嘆いたしました。そこで、防災減災対策について、次の3点についてお伺いします。</p> <p>① 大涌谷周辺の安全体制を継続し、自然研究路も含めた全面開放に向けた当町及び国・県の動向について</p> <p>② 大涌谷での火山活動は数年おきに活発になることが予想されますので、経費負担も含めた持続可能な防災対応について、大涌谷園地にかかわるすべての人たちで議論するとありますが、</p>
--	----------------------	--

		<p>具体的な内容について</p> <p>昨今では、特に厳しい気象状況（大雨、大雪等）になると、安全・安心を考慮して公共交通機関の運休等の措置が行われていると思いますが、昨年11月末に降った雪の時には、主要道路の渋滞並びに公共交通機関のバス、電車等が休止され、湯本駅及び強羅駅には観光客が移動手段を求め、タクシー乗り場に寒さ厳しい中、長蛇の列ができておりました。また、移動手段が道路を使用する以外なくなり渋滞等も発生しております。そこで、国・県・町及び公共交通機関並びに観光業、町民が一体となって緊急時の対応についての対処方法を再構築する必要があると考えますが、町の見解について</p>
--	--	---